

12月9日(土) 14:00~

東京外国語大学海外事情研究所
研究講義棟 4F 427 開場 13:30

今回は、石原俊氏の小笠原研究、『近代日本と小笠原諸島』（平凡社、2007年）、『<群島>の歴史社会学』（弘文堂、2013年）、『群島と大学』（共和国、2017年）を手掛かりに“島嶼から考える”ことの意味を議論したい。オーストラリア（アボリジニ）、フィリピン、グアムをフィールドとする気鋭の研究者に、副題の帝国・主権・グローバル化の各キーワードから自身の研究としている地域に引きつけて論じてもらい、石原氏からのリプライとその後全体討論を通して、「群島」という視座の共有と豊富化を目指す。

■報告

高江洲昌哉：

神奈川大学、日本史(島嶼地域史)

長島怜央：

日本学術振興会、国際社会学・オセアニア地域研究

芹澤隆道：

日本学術振興会、フィリピン史・東南アジア研究

山内由理子：

東京外国語大学、文化人類学

■応答

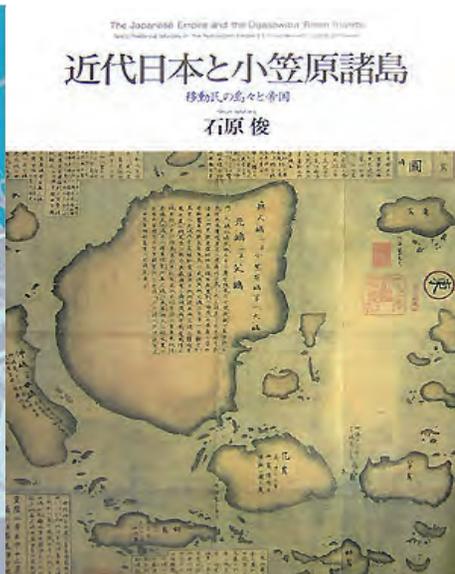
石原 俊：

明治学院大学、歴史社会学

書評コロキウム

「群島」という現場

— 帝国・主権・グローバル化 —



主催 科研費 基盤研究A「批判的地域主義に向けた地域研究のダイアレクティブ」
共催 海外事情研究所 (連絡先:ifa@tufs.ac.jp)